

## ◎ 高松市生涯学習事業の推進状況について

### [ 1 ] 概要

高松市生涯学習事業の令和3年度の推進状況について、事業担当課で自己評価を行いました。

基本目標	施策の基本方向	具体的な施策の展開	事業数	評価別 事業数				
				A	B	C	D	評価不可
IV 青少年の健全育成	1 子どもの体験活動の充実	(1) 放課後や週末の体験・交流活動の場づくり	21	14	2	1	4	0
	2 青少年の健全育成の推進	(1) 子どもが安心できる場所づくり	1	1	0	0	0	0
		(2) 青少年の非行防止活動の推進	-	-	-	-	-	-
		(3) 情報モラル教育とネット・ゲーム依存対策の推進	-	-	-	-	-	-
V 家庭・地域の教育力の向上	1 学校・家庭・地域の連携強化	(1) 家庭・地域と一体となった学校の活性化	8	6	1	0	0	1
	2 家庭及び地域の教育力向上の推進	(1) 家庭の教育力の向上	13	6	4	0	1	2
		(2) 地域の教育力の向上	2	0	0	1	1	0
VI 生涯学習の推進	1 学習機会の充実	(1) 多様なニーズに応じた学習機会の充実	41	25	7	5	0	4
		(2) 学習成果をいかせる環境づくり	8	4	2	1	1	0
	2 学習施設・機能の充実	(1) 学習施設・機能の充実	8	6	2	0	0	0
	施策体系にはないが、指標の設定がある事業	No.103 図書館図書市民一人あたり貸出冊数(年間)	1	1	0	0	0	0
総合計			103	63	18	8	7	7
令和3年度 評価ごとの割合 (%)				61.1%	17.5%	7.8%	6.8%	6.8%
(参考) 令和2年度 評価ごとの割合 (%)				23.3%	15.7%	39.6%	15.7%	5.7%

- ★評価： A (前年度の実績を上回った。前年度実績の100%以上)  
 B (概ね前年度の実績並である。前年度実績の80%以上100%未満)  
 C (前年度の実績を下回った。前年度実績の80%未満)  
 D (未着手、実施不可能、事業中止)

評価不可 (新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン配信等に変更したことにより数値化できない場合を含む)

## [2] 分析結果

令和3年度においては、社会情勢の変化等に対応しながら、今後の生涯学習を推進できるよう、令和4年3月に策定した「生涯学習の今後の推進方針」に定める4つの重点項目に該当する事業についてのみを評価対象としたことにより、昨年度比56事業減の103事業が評価対象事業となりました。

評価を実施した結果、約8割の81事業がA又はB評価となり、前年度実績を上回りました。

このことは、事業担当課が、ポストコロナも視野に入れながら、実施方法や内容などを創意工夫しながら事業を実施したことが、一定の成果につながったものと考えられます。

- ・No.4「親子文化財教室」では、定員を会場の収容人数の50%程度としましたが、午前・午後の二部制を取り入れたことで、参加者数は前年度の実績を上回りました。

- ・No.46「男女共同参画センター学習」とNo.59「認知症サポーター養成講座」では、オンラインを活用した講座等の実施により、それぞれの指標は前年度の実績を上回りました。

- ・No.76「コミュニティセンター等パソコン講習会」では、中止する講座がある中、コミュニティセンターにおいて、多くの需要が見込まれるスマートフォンの使い方講座を積極的に行ったことで、IT講座開催回数は前年度の実績を大幅に上回りました。

- ・No.97「図書館等資料整備事業」では、図書館サービスの向上・機能強化等を目的として、電子図書館サービスを開始したことで、資料整備費は前年度の実績を上回りました。

一方で、新型コロナウイルス感染症感染拡大の観点から中止等を余儀なくされた事業を含めた15事業が、C又はD評価となり、前年度実績を下回りました。

しかしながら、No.8「新春子どもフェスティバル」のように、フェスティバルの開催ができず低い評価となったものの、コロナ禍における新たな取組として、子どもたちのシビックプライドの醸成を目的とした、「高松わくわくかるた」の作製に取り組んだ事業もありました。

## [3] 今後の課題

令和3年度は、前年度と同様に、約8割の事業が新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、感染症対策を十分に講じたり、実施方法等を見直すことで、高い評価につながったものも多くあります。

しかしながら、No.16「年長児童の赤ちゃん・出会い・ふれあい事業」では、オンライン形式等での実施に切り替えたことで、一定の成果が上がっていますが、その一方で、オンライン形式では従来の直接的なふれあい体験をできないとの声も寄せられています。

令和4年度も、ポストコロナを見据えて、多くの事業が様々な形態や手法で実施されることが想定されますが、「生涯学習の今後の推進方針」に基づき、急速に変化する社会情勢や、様々な背景を持つ人々の多様な学びのニーズなどに対応できるよう、学校・家庭・地域などと連携しながら生涯学習を推進していくことが求められています。